

保育科学生の児童図書への興味について

— 学生の読書報告からの考察 —

Nursery Education Students Interests in Children's Literature:

A Thought from Students' Reading Reports

廣 瀬 久 子

Hisako HIROSE

千 勝 真知子

Machiko CHIKATSU

1. はじめに

「読書週間に1日1冊絵本を読もう（実習にそなえて）」というタイトルで、学生に2週間にわたり1日1冊の絵本を読む課題を与えた。計14冊の絵本の選択に不安を感じたのか、学生からジャンルを広げて欲しいと要望がだされた。そこで絵本に偏らず児童図書の範疇からと選択の幅を広くした。

この課題の目的は、短大在学中に5回実施する実習に備えるためである。保育科では、資格取得のために幼稚園、保育所、施設等での実習が課せられる。幼稚園実習や保育所実習では、必ずと言っていいくらい、読み聞かせ、紙芝居などを実演する場面がある。子ども達に、上手に本を読んであげるために、先ず自分が多くの本に触れておくことが必要である。また、もう一つの目的は実習指導担当の教員が、学生の児童図書の読書実態を知り、指導に生かすためである。

さらに学生に与えた課題の結果から、保育科に学ぶ学生の読書志向と児童図書研究の分析を試みたい。

2. 学生の読書報告の方法と集計

2週間という事で7日分の表を作成し、日付、絵本の題名（絵本以外も可）、感動したこと・学んだことを書き込ませる用紙を2枚配布した。1週間分書き終えるごとに提出させ、内容を確認した。そして読書した本の書名、種別、同一本の読書人数を調べ集計した。報告書回収人数86名。記入された書名冊数508冊。

数多く読まれた児童図書の中で、読者数が多かった上位20冊の書名を次の表にまとめた。

読書人数	書名	文	絵
14名	ぐりとぐら	なががわえりこ	おおむらゆりこ
12名	はらぺこあおむし	エリック＝カール	エリック＝カール
12名	3びきのこぶた	イギリス昔話	ポール・ガルトン
9名	いないいないばあ	松谷みよ子	瀬川康男
9名	つみきのいえ	平田研也	加藤久仁生
7名	くまのがっこう	あいほらひろゆき	あだちなみ
7名	このいろなあに	せなけいこ	せなけいこ
7名	ずっとずっとだいすきだよ	ハンス・ウィルヘルム	ハンス・ウィルヘルム
7名	おおきなかぶ	トルストイ再話	佐藤忠良
7名	みんなともだち	仲川ひろたか	村上康成
7名	象の背中	秋元康	城井文
6名	シンデレラ	シャルル・ペロー	
6名	ねないこだれだ	せなけいこ	せなけいこ
6名	わたしょうちえんにいくの	ローレンス・アンホールト	ローレンス・アンホールト
5名	赤ずきんちゃん	グリム童話	バーナデット・ワッツ

読書人数	書名	文	絵
5名	おばけのかぞくのいちにち	西平あかね	西平あかね
5名	さるかにがっせん	松谷みよ子	瀬川康男
5名	100万回生きたねこ	佐野洋子	佐野洋子
5名	どうぞのいす	香山美子	柿本幸造
5名	ぐるんぱのようちえん	西内みなみ	堀内誠一

これらの本に学生は以下のような感想を述べている。

「ぐりとぐら」

- ・とても有名な作品ですが、初めて読みました。絵がかわいくて、カステラを動物達が食べているところがお気に入りです。
- ・文字数はとても少なく、とても読みやすい絵本だと思った。人気の絵本だから子ども達に読んでもらいたい。
- ・大きな卵をどんなふうにするか、想像力がつく絵本である。
- ・たまごを色々なものにしていく。可愛らしい。
- ・2匹が見つけた卵をどうやって運ぶか悩んでいたりと、カステラを作った後に残った卵の殻をどうしたかなど、読んでいる側が色々想像したりできると思いました。できたカステラを森のなかのみんなで分けて仲良く食べたところも良かったです。
- ・子どもの想像力を引き立てるような絵本である。
- ・小さいころから読み続けている本です。ぐりとぐらから見たらたまごだっけとすごく大きく見える。たくさんの動物たちと仲良くカステラを食べている姿は印象的です。
- ・道で大きなたまごを見つけて、二人で力を合わせてカステラを作る話。力を合わせることとみんなに分け与えることの大切さを学んだ。最後が問題になっているところと、歌になるようなことばが入っているところが読み聞かせにはいい絵本だと思う。
- ・この本は私が幼い時に好きな絵本だったので、初日に読みました。たくさんの動物の名前や、食器などを覚えることができる。
- ・中学生の時に知った本です。動物の名前や気持ちがわかった絵本でした。

「はらぺこあおむし」

- ・たくさん食べてきれいな蝶になったのが印象的でした。食べすぎに注意。
- ・食べ過ぎるのはだめと言う事を学んだ。
- ・穴のしかけがあり、青むしの満腹になるまで成長していく様子がおもしろいです。きれいなチョウになってよかったです。
- ・年齢に関係なく読める代表作である。ページをめくる速さに注意する。

- ・あおむしがどんどんご飯を食べていって量が増え続ける。あおむしは気持ち悪いイメージがあったけど、楽しんで読める絵本である。
- ・本のつくりが凝っている。
- ・おなかをすかせた青むしが、いろいろな物を食べに出かけお腹いっぱいになる。仕掛けがたくさんあり、とても楽しい絵本です。
- ・あおむしの変態を経て蝶になるまでを追っているから、子どもたちが蝶になるまでの過程を知る、いいきっかけになる。絵は大ざっぱだけど引きつけられる。
- ・一匹の青むしが立派な蝶になるために、いろいろな食べ物を食べて大きくなる話。カラフルで本に工夫があり面白い。
- ・何回読んでも飽きないです。

【3びきのこぶた】

- ・楽するといい事がないという事が分かった。
- ・一生懸命働く事、みんなで協力することの大切さがとても分かり易く描かれている。
- ・楽しないで、地道に行く事が大事と感じた。
- ・三匹のこぶたが親離れをして、自分たちで家をつくるお話。一人一人の性格が家造りに表現されていてとてもおもしろい。
- ・一番ちいさいこぶたの家は造るのに時間がかかったけど、その分頑丈な家になり、オオカミにも壊されずに済み、兄たちをも救えたところに感動した。
- ・一人ではできないことも、みんなで力を合わせればできるということを教えている。
- ・自分の力で生きていくこぶたに感動しました。三匹で協力すれば、こわくないという事を学べました。
- ・どんな嫌な事にも逃げずに立ち向かえば、いつかは勝てるという事を教えられました。

【いないいないばあ】

- ・めくるたびに、「ばあ」と遊べるのがいい。
- ・色々な動物がでてきて、短い文で楽しい。
- ・小さい子どもは色々な動物が「ばあ」とやった時喜ぶと思った。
- ・単純だが赤ちゃんに喜ばれる内容だと思う。絵がなんだか憎めない顔をしているので良い。
- ・いろいろな動物が出てきて、「いないいないばあ」をしてとてもかわいらしい。
- ・「いないいないばあ」と繰り返しがあから、子どもは笑えるし、真似ができる。面白い顔をしてたくさん笑わせることができるからよいと思う。動作を真似して一緒にやれるようになったら、にらめっこもできるようになると思う。

【つみきのいえ】

- ・海面が少しずつ上昇していく町に住み、おじいさんやその町に住む皆が、上昇にあわせて、家を上に増築しながら暮らしている努力を感じる。
- ・最近テレビで取りあつかっていた絵本。温暖化の事が触れられていたり、すごい優しくなれる絵本。色使いがとても好き。
- ・短編アニメでアカデミー賞を取ったので、絵本を読みました。絵の雰囲気がとてもやわらかくて優しい絵で、見ていてほっとする絵本でした。今までの過去や思い出があって今があるというのを実感できました。それがつみきの家につながるのだと思いました。でも、幼児には少し難しいかな？
- ・とても感動的な内容だった。是非とも色々な人たちに読んでもらいたい。この本は、しっかり読めば子ども達にも伝わる本だと思う。
- ・絵の雰囲気がやわらかくて印象に残った。でも子供向けというよりは、人生を長く行き、色々経験している大人のほうが、何か感じるものがあると思った。
- ・おじいさんの思い出が全て「つみきのいえ」にあって、便利さや楽さよりもここに住み続けようと思う気持ちに感動した。
- ・海面上昇で積み上げられた家、ある時おじいさんは物を探しにどンドン下に降りていく。おばあさんとの思い出の家、子どもたちとの思い出の家のなかでおじいさんの心は、どンドン昔を思い出していく。なぜか絵など溶けて、おじいさんの悲しそうな表情に感動した。
- ・おじいさんが住みにくい土地で、たとえ一人になってもおばあさんや子どもたちを思い出して、そこに住み続けていることに感動した。
- ・おじいさんの一途さが心にしみた。思い出の一つ一つがとても良く、その家の大切さが深く分かった。

【くまのがっこう】

- ・12匹のくまのこのお話でした。一番末っ子のジャッキー〔女の子〕がとても可愛くて癒された。泣いてしまうところの「あーん」の工夫をしたり、数を数えるところを工夫して読んだらいいと思った。
- ・学校で毎日一緒に過ごすお友達との友情に感動した。みんな仲良く生活する、お友達を大切にすることなどを学べる本だと思う。
- ・みんなが力を合わせたら、できないと思っていたこともできるようになるのだなあとと思った。
- ・たった一人の女の子ジャッキー、学校ではいつもみんなと違うことをして、いたずら好き。みんなが泣き出すとお母さん代わりをして慰める。最後にジャッキーが泣いてしまう。最後はみんなで仲良くねむる。ジャッキーのようにみんなと違うことをして、きかない

ところが幼稚園の頃の自分と重なって切ない気持ちになった。

- ・12匹のくまの子たちの一日で、一番年下の女の子のクマがみんなのお母さん代わりになって、奮闘するところを見て感動しました。
- ・数を数える勉強になる。学校にあがる前に読んであげれば、学校でどんなことをするのか分かると思う。
- ・絵がすごくかわいかった。

【このいろなあに】

- ・馬は茶色、みかんはオレンジ色などさまざまな色を作っていて、勉強になると思う。
- ・さまざまな色を使っていて、子どもが見ても楽しいし、私たちも見て楽しめる絵本だった。
- ・色の説明を言葉と身の回りにあるものに例えて、更にそのページの背景もその色を使って、色を教えるにはすごくいい絵本だと思った。
- ・いろいろな色を使っていてよかった。
- ・たくさんの物や動物を色で表現しているから、名前を覚えられる。

【ずっとずっとだいすきだよ】

- ・ペットの死によって、愛しているものを失ってしまう悲しみと、愛し続けることの大切さが分かりました。
- ・可愛がっていた犬が死んでしまい、悲しい気持ちになるけど犬が残っていたものを思い出して元気になる。
- ・動物を本当の家族のように思えることは素晴らしいことだ。僕の優しさがすごくあったかい本で大好きだ。気持ちを言葉にすることの大切さを教えてくれる。
- ・小学生の時に初めて読んで感動したことを今でも覚えています。自分が子どもに読んであげるなら、主人公のようにペットを思いやる心、命の大切さ、そして命の尊さを少しでも分かってもらえたらいいと思います。
- ・以前に読んだことがあるが、改めて読んでみてエルフィーはすごく幸せだったろうなと思えた。幼児には少し難しいかも知れないが、小学校入学前くらいの子は少し理解してくれるのではないかと思う。
- ・命の大切さをペット・家族を通して学んだ。子どもにも小さい頃から命について話をすることは必要だと思った。

【おおきなかぶ】

- ・大きなかぶを抜こうとしたおじいさんが、皆を連れて協力して抜く事の喜び。

- ・大きなかぶをみんなで引っ張りぬく協力をまなんだ。
- ・小さい頃から慣れ親しんできたお話。一人では大きなかぶは抜けなくても、みんなで力を合わせればできるということがわかる。
- ・みんなで「うんとこしょ・どっこいしょ」と頑張っている。絵本を見ている子どもも一緒に頑張って応援してくれると思った。

【みんなともだち】

- ・子ども達はみんな仲良く毎日元気いっぱい遊んでいる。広い芝生があればでんぐり返し、チョークがあればそこら中に落書きしてしまう。そんなはちゃめちやな子どもたちをリアルに描いた絵本である。
- ・子ども達はみんな仲良し。毎日元気いっぱい遊びます。るすばんする寂しい子もみんなで集まって歌をうたうなど、みんなで集まるのは楽しいという気持ちをいっぱい伝えていた。
- ・元気いっぱいな子ども達の素朴な遊びを描いた絵本。
- ・元気いっぱいな子ども達が描かれていて、リズムカルな文に子どもたちのリズムカルな動きで、やわらかな色彩の絵がとても可愛い。
- ・「みんなともだち」の歌の歌詞を本にした絵本です。卒業してもずっと友達だということ子どもたちに教えている絵本です。
- ・友達の大切さを教えている絵本です。

【象の背中】

- ・すごく感動した。大人向けである。
- ・思わず涙が出そうになった。
- ・お父さんが死んでしまうお話で、家族の大切さを学べる本でした。お父さんの気持ちも子どもの気持ちも教えられる深い内容でした。
- ・これは歌の詞を絵本にしたものでした。お父さんの大切さを今、このときに気づいてほしくなる絵本だと思いました。涙が出てしまう、悲しいあたたかい絵本です。
- ・家族を残しなぜ自分だけ旅立たなければいけないのか。家族に対する申し訳ない気持ちなど短い絵本にぎゅっと内容がつまっていて、命の大切さなど、泣ける絵本です。
- ・突然象のお父さんが神様に死を予告され死んでしまうが、お父さんは、家族を大切に思い、死んでからも空の上から家族を見守っているという話、すごく感動した。
- ・余命わずかだと知らされた人は、みんなこのように思うのかなと死の重みを感じた。「ありがとう」という言葉が素晴らしいと思った。

【シンデレラ】

- ・素敵だった。
- ・弱いものいじめはだめ。いやな事があってもいつかいいことがある。
- ・継母や義理のお姉さん達に苛められ続けても、一生懸命なシンデレラは凄いなと思います。王子さまと幸せになって良かったです。改めて読むと面白かったです。

【ねないこだれだ】

- ・保育所の午睡や夜寝る前に子どもに読んであげると、とても効果的だと思いました。ぐっすり眠れると思います。
- ・寝ない子どもは、おばけの世界へ連れて行くというところが、寝ない子どもが怖がってすぐに寝るようになるような気がして、良い本だと思いました。
- ・夜子どもが寝る前や、保育所での午睡前などに読んであげると適切だと思います。
- ・読み聞かせる側が読みやすく、感情も入れやすい文だと思う。おばけという怖いものを出すことで、寝ないとこのようになってしまうよと、教えられる本だと思いました。

【わたしようちえんにいくの】

- ・ようちえんでの1日が思い浮かんでくるような楽しい絵本だ。絵が可愛らしくて、読みやすい。
- ・最初はようちえんに行くのが不安だったけど、優しい先生やお友達ができて楽しみになる。ようちえんの日常も描かれていて、絵も可愛い。新入生が入ってきて。年長さんになった園児達に読んであげると、不安だった気持ちを思い出せて、良い先輩になれる気がする。
- ・最初は幼稚園に行くのがいやだった子が、だんだん幼稚園が好きになる。子どもたちに幼稚園はいいところだよということを教える本だと思った。
- ・幼稚園の楽しい出来事やお友達のことがかいてあり、幼稚園の楽しさが伝えられるよい絵本でした。
- ・初めての幼稚園で最初は不安でいっぱいな女の子の話だったので、入園したばかりの幼児たちに読んであげたいと思った。
- ・幼稚園を嫌がっていたけど、友達が出来、楽しいと思えるようになってくる。現実的な話だと思った。

【赤ずきんちゃん】

- ・女の子なら誰でも知っているお話。心の優しいあかずきんちゃんだから、狼をおばあちゃんと信じきってしまうけど、最終的に助かるのですごくハッピーエンド。

- ・おばあさんに対する優しさに感動しました。声は似ていても知らない人には用心しなければいけないという事を、子どもたちに教えてあげられる本だと思います。

【おばけかぞくのいちにち】

- ・人間家族とおばけ家族を比較しながら話が進んでいくお話。子どもはおばけが好きだからこの本はとても楽しくてよいと思った。絵や会話もかわいい。
- ・人間が朝起きるとおばけは寝る。逆に夜寝る頃になるとおばけは起きだしてくる。この絵本は絵がとても細かくて一つ一つとても楽しいものでした。何回も繰り返して読みたくなる絵本です。
- ・主人公が保育園に通っているから、同世代の子どもはとても共感できると思った。またおばけの世界は、子どもたちがとても興味を持つ話だと思った。
- ・おばけにもちゃんと家族があって、おばけは何を食べているのか、いろいろ考えることが出来て楽しい絵本です。

【さるかにがっせん】

- ・悪いことをしたら自分に返ってくる。
- ・サルはいたずらばかりして、かにを困らせてばかりいた。かには仲間に協力してもらい、サルを懲らしめてやった。いたずらや人の嫌がることをするのはいけないことだと教えてもらえるし、仲間の大切さが伝わってくるような話だと思う。
- ・大事な柿をさるに一人占めされ、さるに仕返しをしたけれど、最後はみんなで仲良く暮らせてよかった。
- ・ずるいサルと努力家だったカニ。カニの子どもたちと仕返しをするために協力してくれる仲間との話。子どもに善悪の話をするのにはちょうど良い絵本だと思う。
- ・さるが、かにやくり、うす、はちと仲良くなる場所に感動しました。友達の大切さが分かる絵本であると思いました。

【100万回生きたねこ】

- ・小さい子どもにはそこまでは考えられないだろうかという絵本。子どもと大人が一緒によんでもらいたい。
- ・100万回も生きたり死んだりしてすごいねこだと思った。
- ・100万回死んで生きたねこは、悲しみを全く分かってなく一匹の白いねこと出合って初めて泣いて悲しみを感じて、すごく悲しくなりました。
- ・ねこは100万回生きても一度も泣いた事がなく、自分のことだけが好きだったけれども、最

後に自分よりも白いねこと子ねこたちのことを好きになり、白いねことずっと一緒にいたい
と思い、100万回生きるより1回を幸せに生きるほうが良いと思う。

- ・一匹の猫についていろいろなエピソードがあって、最後に本当の“自分の居場所”が出来る
というところが感動した。結末は少し悲しくなった。

【どうぞのいす】

- ・うさぎさんがつくった「どうぞのいす」をきっかけとして、動物たちが伝言ゲームのように
おいしい食べ物を交換していく、新しいアイデアの絵本と思った。
- ・動物たちがいすに書いてある「どうぞ」を見て、思いやりの行動をするところが、子どもた
ちにも分かりやすい話だと思った。
- ・絵がとても可愛い。次々と出てくる動物たちが、次にいすに座る者のためを思って、いすに
何かを置いていく心配り、思いやりのある絵本だった。

【ぐるんぱのようちえん】

- ・ようちえんの楽しさが、すぐ分かる絵本だ。
- ・何をやってもだめでも、やっていればその経験がいつか役に立つ日が来る。

3. 学生の読書傾向分析

この読書課題を通して学生の読書の傾向を考える事を試みたが、まず、学生それぞれが読んだ
本の多さに驚いた。我々が聞いた事もない知らない書名が多いという事実を目の当たりにした。
合計508冊の児童図書を目の前に並べたと想像してみる。そこには様々な種類の本が現れる。こ
れらの本を1冊残らず86名の学生の誰かが、必ず読んだ事になる。

さて、これらの本の読者数上位20位までの書物を分類別にと次のようになる。

読書のジャンルを広げてみたが、上位20冊のジャンルは下記表にあるように5つになる。そし
て学生が読んでいる書名をみると種類雑多であることが分かる。古典的児童書物もあれば、つい
最近の話題作という作品もある。これらの中で、創作絵本、外国の絵本が同数であるが、その作
品群には、長期間にわたり子どもたちの心をとらえているものがある。『ぐりとぐら』『はらぺこ

	分 類	冊数
1	創作絵本	7
1	外国の絵本	7
3	赤ちゃん絵本	3
4	童謡絵本	2
5	昔話の本	1

あおむし』『おおきなかぶ』などである。『ぐりとぐら』は、幼児から大人も楽しめる創作絵本である。多くの読者を得て、この作品はシリーズ物となって何巻も発行されている。主人公“ぐり”と“ぐら”はたくさんのお話を展開させて、楽しさを与えている。学生は『ぐりとぐら』のいろいろなお話を好んで読んでいる。この作品は文章がけっこう多く、“ぐり”と“ぐら”の可愛らしい描写がすてきにマッチしている。文字を読めない小さい子から、一人で読めるようになった子まで、さらには大人にまでも多くの読者を掴んでいる本だと思う。『はらぺこあおむし』や『おおきなかぶ』も多くの人々に読まれている外国の作品であり、長年にわたって多くの子ども達に愛されている絵本である。『はらぺこあおむし』は本の装丁に仕掛けがあり、その仕掛けは、時の流れとあおむしの成長が、1ページごとにリアルに伝わる効果をだしている。『おおきなかぶ』は小学校低学年の教科書でも扱われる絵本である。ストーリー、登場人物（動物）、その出来事などが、優しく楽しく力強くそしてハッピーエンドである、という話が読み手と聞き手、また「うんとこしょ、どっこいしょ」という掛け声が作者との連帯感を生み出す。幼稚園や子ども集団などで、よく紙芝居や子ども劇として演じられているのも子どもに強い印象を与えているからだろう。

また学生の多くが、赤ちゃん絵本をとりあげている。赤ちゃん絵本の魅力は、何と言ってもその可愛らしさ、愛らしさ、面白さ、不思議さ、おかしさなど、つい手に取ってしまいたいのであろうか。学生は「可愛い!!」をよく連発する。それは、対象が人でも物でも、仕草であっても同じである。増してや、書店や書棚で多くの種類の絵本が並んでいるところでは、迷わず、可愛い絵本を手にする姿が見えるようである。彼らが選んだ赤ちゃん絵本も、古典的絵本に入るものから、出版されて、まだ新しいものまでいろいろであるのが、読書興味の幅の広さを思わせる。

童謡絵本は童謡の歌詞に基づいて、絵が添えられた絵本といえる。童謡には、ストーリー性のあるものから、ナンセンス的な現実離れしたものがある。だから、童謡絵本の場合は絵本にするとき、絵本にしたいという材料、言葉、リズム、情景などが必要である。童謡絵本も楽しい。読み終えた後で、必ず童謡を歌っている。

昔話は外国のものも、日本のものも数多くあり、素晴らしい作品を読むことができる。昔話には、共通の作風があり歴史的な重みを感じられる。教訓めいたものから、冒険もの、とんちもの、なぞなぞ、など作者の機知や叡智などが作品に表れている。よく目にし、耳にしてきたと思われる作品名が学生の読書の中にあげられている。

大学生になった時、実習を控えて課せられた自由読書において、学生は以上のような種別の本を選択している。彼らは幼い頃、誰かに読んでもらったか、自分で読んだ経験で、選んでいるようである。幼い頃、体験した読書への味わいが、大きくなって蘇るのであろう。何らかの読書体験から、もう一度読んでみたいという気持ちをそそるものがある。また、自分が保育科を選び、将来保育士になりたいという、職業意識を持って児童図書に触れている学生がいる。1年後期の保育実習で努力したこと、また今後の課題に絵本の読みきかせを上げている学生がいる。子ども

たちが聞きやすく、見やすい読み聞かせの工夫や年齢に応じた本の選択と工夫などがある。実習の準備のために、多くの本を読みたい、という姿勢はそのまましっかりと専門の勉強に繋がっているのだと思う。

学生への読書課題から学生の興味を押し図ろうとしたが、種々雑多であり、統一する事、区分する事の困難さが分かった。しかし学生は普段あまり読書しなくても、読み始めると、本の世界に入り込む柔軟さがある。これは、保育士を目指す学生の特質であるといえる。今後、この保育科学生の特質を踏まえた読書課題を考えてみたいと思う。

参考文献

- 1) 読み聞かせわくわくハンドブック 代田知子著 一声社
- 2) 現代日本児童文学作家事典 日本児童学者協会編
- 3) よい絵本225選 全国学校図書館協議会発行